

第13回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2016
開催企画書

開催趣旨：

わが国の肉牛生産は、かつてないほどの高相場に沸き立っています。近況では市場の和牛 A2 が 2,000 円/kg 超えと、これまでにない相場です。それに伴い素牛価格も高騰し、和牛素牛 1 頭 80 万円を超える相場が作られています。配合飼料等の生産資材の高値安定などと共に、将来の経営の不安から肥育事業から撤退する農家も現れ、肉牛肥育事業はかなり厳しい状況におかれています。

このような肉牛経営の克服には、求められる肉質の再評価とランニングコストの低減により経費を最小限にしておくことが、激変する次世代肥育事業に望まれています。そのためには反芻家畜の特徴という肉牛生産の原点に返り、豊富な地域副産物や自給飼料を活用して堆肥を畑地に還元する資源循環型肉牛生産の重要性を再認識する必要があります。

本シンポジウムは資源循環型肉牛生産方式の普及を目的とし、環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会および北海道短角牛振興協議会が主催し開催します。わが国の飼料自給率 100% 肉牛生産のその展望について、生産者、消費者、流通業界および大学・研究機関など多角的立場からの意見交換を行い、資源循環型肉牛生産の意義浸透を図ってゆきます。

シンポジウムテーマ：「飼料自給率 100% 肉牛生産の挑戦」

日 時：平成 28 年 11 月 11 日(金) 13:00-17:00

会 場：とがちプラザ（帯広市）2 階 視聴覚室

主 催：環境リサイクル肉牛協議会、北海道アンガス牛振興協議会
北海道短角牛振興協議会

共 催：帯広市、十勝農業協同組合連合会、北海道総合研究機構畜産試験場、北海道酪農畜産協会、(一社)全国肉用牛振興基金協会

後 援：帯広畜産大学、北海道十勝総合振興局、芽室町農業協同組合、NHK 帯広放送局、北海道新聞帯広支社、日本農業新聞北海道支所、十勝毎日新聞社

参加費： 無料

内 容：（13:00-17:00）

1. 基調講演 「自給飼料 100%で和牛生産の意義」
九州大学大学院農学研究院 後藤貴文准教授
2. 話題提供 1. 「北里八雲牛の町内生産」
北里八雲牛生産組合 佐藤正之組合長
3. 話題提供 2. 「野生牛” にかける～様似町からの挑戦～」
農業組合法人 駒谷牧場 西川奈緒子代表
4. 話題提供 3. 「グラスサイレージ給与による黒毛和種去勢牛の育成肥育」道総研 畜産試験場肉牛G 遠藤哲代研究員
5. 話題提供 4. 「ドライエージング赤身肉のおいしく食べる方法」
株式会社 佐野 佳治社長
6. パネルディスカッション パネラー：講演者、消費者代表

ホテル グランテラス帯広

食味試験 （17:30～18:00）

e-びーふ試食会 帯広畜産大学 口田研究室主催

意見交換会（18:00～）

（希望者のみ 参加費別途¥3,500）

現地検討会：11月12日(土)午前8:00～発

足寄町北十勝牧場(上田代表) 日本短角種繁殖肥育牧場

参加対象者および参加予定人数：

道内肉牛生産者、管内農業団体関係者、流通業界関係者、消費者
団体関係者、大学・試験研究機関関係者 約 140 名

実行委員会：榛澤保彦、嶋村義文、左 久、花房俊一、佐藤幸信、
内藤順介、奈良岡武任

シンポジウム事務局：

連絡先：(特非) 環境リサイクル肉牛協議会 理事 花房俊一

〒080-2460 帯広市西20条北2丁目20-4 東洋内

Tel:0155-58-1129 Fax: 0155-58-1130

携帯：090-5198-4090 e-mail:kanrikyo@grape.plala.or.jp

シンポジウム申込み・問い合わせ先：

(地独)道立総研機構 畜産試験場 技術普及部 佐藤幸信

Tel:0156-64-0626 Fax: 0156-64-3212

e-mail: satou-yukinobu@hro.or.jp